

能は歌舞(謡と舞)を中心に構成された演劇です。シテ(主人公)は神、武将の霊、草木の精、鬼など様々で、
節(メロディ)を付けた「謡」を謡い、哀しいや嬉しいといった感情表現の場面では「舞」を舞います。
狂言は中世の口語による会話劇です。おっちょこちょいな人や偉ぶった人が現れ、
現代の私たちが見ても笑ってしまうような風刺劇がたくさんあります。

狂言「^{とび こえ}飛越」

茶の湯に招かれた男が、新発意(出家して間もない少年)と連れ立って出かけます。途中小川にさしかかり、男は軽々と飛び越えますが、新発意は臆病でなかなか飛び越えることができず、手前で止まってしまう。そこで男が戻って、ふたりで手を繋いで飛び越えようとしますが、新発意だけが川に落ちてしまい・・・



「匠として名高い三條小鍛冶宗近に剣を打たせよ」という不思議な夢を見た一条院は、宗近に剣を打つように命じます。宗近は、自分と同様の力を持った相鎚を打つ者がいないために打ち切れないと訴えますが聞き入れてくれません。困った宗近は、氏神の稲荷明神に助けを求めて参詣しますが、そこで不思議な少年に声をかけられます。少年は、宗近を励まし、相鎚を勤めると約束し稲荷山に消えていきます。家に帰った宗近が鍛冶壇で礼拝していると稲荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相鎚を勤めろ」と告げます。少年は稲荷明神の化身だったのです。明神の相鎚を得た宗近は、無事に剣を鍛え上げました。こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名剣が出来上がったのです。明神は名剣を勅使に捧げた後、雲に乗って稲荷の峯に帰っていきました。

能「^{こ か じ}小鍛冶」

第19回 高校生のための能楽鑑賞会

◆狂言「^{とび こえ}飛越」 小西 玲央

◆能「^{こ か じ}小鍛冶」 辰巳 孝弥

令和7年7月20日(日) 14時開演(13時半開場) ※16時半終演予定

参加無料 会場 **大槻能楽堂**

但し、申込みが必要となります

【対象】高校生および引率教諭(教諭のみでは参加は出来ません)

【定員】220名先着順

【申込方法】右下のQRコードを読み取りいただきお申込みください
後日メールにてご連絡申し上げます

※QRコードが読み取れない方は下記【お問い合わせ先】までお知らせください

●氏名 ●学校名 ●連絡先(メール)を明記の上、お申込みください

学校単位でのお申し込みは

●学校名と教諭名、参加人数、連絡先(メール)を明記ください

【申込受付期間】

令和7年6月23日(月)～7月18日(金)

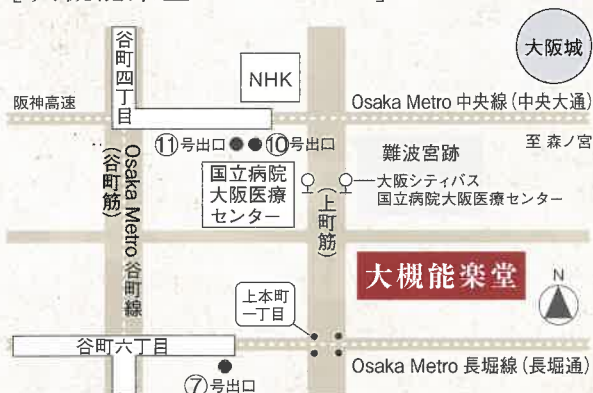
【お問い合わせ先】

koukousei.nougaku@gmail.com

参加お申込みは
こちらから



【大槻能楽堂へのアクセス】



- Osaka Metro谷町線・中央線「谷町四丁目」駅下車、
⑩号出口を出て南へ約300m。(⑪号出口にエレベーターあり)
またはOsaka Metro谷町線・長堀鶴見緑地線「谷町六丁目」駅下車、
⑦号出口を出て北へ約350m。(⑦号出口にエレベーターあり)
- 大阪シティバス「国立病院大阪医療センター」バス停下車、南へすぐ
*「大阪駅前」から62号系統「住吉車庫前」行き乗車
*「あべの橋」から62号系統「大阪駅前」行き乗車

◆◆◆ 申込みいただきました方には「入場証」をお送りしますので、パソコンからのメール受信可能な環境でお待ちください ◆◆◆

本公演における写真撮影・テープ録音・携帯電話等にての撮影・録音は著作権・肖像権に触れますのでご遠慮いただきますようお願いいたします